

山陰初！ガラス玉の製作の痕跡を確認

青谷上寺地遺跡

●あおやかみじちいせき

弥生時代のムラのありさまを探るために発掘調査を行い、約500m²の調査範囲から、9点の銅鏃、十数点のガラス玉がみつかりました。様々な形をした銅鏃は、近畿地方や日本海沿岸地域から「交易」によってこの地にもたらされたものです。ま

たガラス玉の中には、熱で溶けかけた小さなガラスの破片同士がくっついて塊となった「作りかけ」のものもあり、山陰地方で初めて、遺跡の中でガラス玉の製作が行われたことを確認できました。



「作りかけ」の塊（写真右）…砕いたガラス製品を鑄型に入れて熱し、再加工する途中で捨てられたと考えられます。直径約8mm。



◀大川泰広 文化財主事

発掘調査はまだ弥生時代の土に到達していません。さらなる数の銅鏃やガラス工房などが埋もれている可能性が高く、今後の調査に期待大です。

とっておき情報

青谷上寺地遺跡展示館で発掘速報展が開催されます。ぜひご来場ください！
〈青谷上寺地遺跡展示館ロビー展 青谷上寺地遺跡 発掘調査速報展〉

- 開催期間 3月25日(土)～5月31日(水) 9時～17時
- 場 所 青谷上寺地遺跡展示館ロビー
- 入館料 無料
- 問 合 せ 青谷上寺地遺跡展示館 電話 0857-85-0841



近畿地方に多いタイプ

日本海沿岸に多いタイプ

出土した銅鏃…日本海沿岸に多くみられる狐の顔を逆さにしたような形のものと、近畿地方に多くみられる三角形のものが含まれています。



発掘調査の様子



出土した木製の板

遺跡初！谷部の調査で木製の板が出土

妻木晩田遺跡

●むきばんだいせき

平成28年秋に谷部の発掘調査を行いました。妻木晩田遺跡では初めてとなる湧水地の調査で出土した木製の板を紹介します。

山の上の村である妻木晩田遺跡では木製の遺物は腐ってしまうため、これまでの丘陵上の調査では炭化した建築部材など以外は見つけることができませ

んでした。炭化していない状態の木製遺物は、妻木晩田遺跡初の発見です。見つかった板材は広葉樹で、表面に紐か縄による緊縛痕のような「当たり」が残っています。遺構は見つかりませんでしたが、付近で板材を組合せて利用していた可能性があり、今後詳しく調べていきます！



◀長尾かおり 文化財主事

想定以上の湧水に苦労しましたが、待望の木製遺物が出土して嬉しかったです。